

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立南第二小学校

1. 本年度の全国学力・学習調査結果の学力の概要について

- ・国語についても算数についても概ね良好で、全国平均とほぼ同じもしくは上回っています。
- ・国語については、思考力、判断力、表現力等の「A話すこと・聞くこと」の設問への正答率が高く、また、知識・技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の設問への正答率も高いという結果でした。辞書を机の横に用意し、どんな時も疑問に思ったときは辞書を引くという活動を推進していたことが功を奏したと考えられます。
- ・国語の記述式の問題についてはよく書けていますが、目的を意識して必要な語や文を見つけることに課題がみられました。
- ・算数については、「知識・技能」「思考・判断・表現」に関する問題の正答率がともに高い結果でしたが、記述式問題では、面積の求め方や理由の表し方で課題がみられ、正答率が低くなっています。

2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問いや、語句の使い方を理解し、文章の中で正しく使うことができるかを見る問いの正答率は高いです。 ・記述式の解答で、条件に合うようにまとめて書く力がついてきています。日ごろから、自分の考えを書く機会を多く持っている成果といえます。 ・話すこと・聞くことに関する問題の正答率が高く、無解答もありません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の使い方では無解答が多くみられました。 ・文の中の主語と述語、修飾と被修飾の関係を捉えることができているかどうかをみる問いの正答率がかなり低くなっています。 ・読むことの問題で、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約することに課題がみられました。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての領域において正答率が高いです。 ・特に「C測定」や「Dデータ」の活用において、正答率が高いです。 ・棒グラフから数量や項目間の関係を読み取る技能の問題の正答率が高いです。 ・条件に合う時刻を求めたり、時間を求める式を立式したりする問題の正答率が高くなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・除法の計算はできるが、立式の意味理解や面積の求め方の意味理解が不十分でした。 ・1つの情報だけの問題の正答率の高いものの、2つの情報から読み取る問題の正答率が低くなっています。 ・思考・判断したことを記述して表現することに課題があり、正答率が50%台となっています。 ・立式や計算方法の意味理解を問われる問題で正答率が低くなっています。

3. 成果と課題を踏まえた今後の取組みの方向性について

(1) 教職員の授業力の向上

わかりやすく見通しの持てる授業づくりを進め、主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動に取り組みます。

『伝え合い わかりあい 高め合おう』という研究テーマをかかげ、児童の国語力の向上を中心に研究を進めています。校内での研究授業の取組みを低・中・高学年で進め、年間3回を基本として取り組んでいます。指導案の段階から討議を重ね、授業提案が児童の学力向上に効果的であったかの検証を繰り返しています。また、若手教員育成のためにも、全教員が研究授業を年間1回取り組むよう進めています。

(2) 授業に向かう姿勢と言語活動の充実

ユニバーサルデザインの教室環境を整えて、1日と1時間ごとの授業の流れを示し、児童が授業に向かいやすいよう配慮しています。

机の横に国語辞書を常備させ、どの授業でも言葉の意味をすぐに調べられるようにしています。一つ一つの言葉を大切に作る姿勢をもって、語彙を増やして豊かな表現ができるよう、取組みを行っています。

見落としなく論理的に記述したり、説明したりできる機会を増やし、記述の仕方(事実・方法・理由)を確実に身につけられるように取り組めます。

(3) タブレット端末の活用

タブレット端末を児童が身近に手軽に使うことのできるようにし、思考を深めるための手立てや相互学習を充実させるための手立てとして活用しています。

4. 学力向上に関する現在の取組みと今後の改善について

(1) ノート指導を含む書くことの指導



大事なことを落とさないで聞き取るためにメモを取ること、ノートに自分の考えを書きこむこと、単元ごとのノートまとめや新聞にしてまとめることなどを続けることで、大切なことを要約してわかりやすくまとめる技能を身につけられるよう、低学年から学年に応じて段階的に学習活動に取り入れています。また、振り返りをどの教科でも書き、わかったことや自分の考えをまとめることで、表現力の向上にもつなげています。

今回の結果から、読むことの問題で目的を意識して中心となる語や文を見つけることに課題がみられました。本校の研究で行っている独自学習や相互学習を充実させるとともに、キーワードや字数に注意を払って、書く学習活動に引き続き取り組んでいきます。

(2) ICTの活用



一人一台タブレットを学習において効果的に使用できるよう研究を進めています。授業の中だけでなく、朝学習や隙間時間に取り出してタブレットドリルに取り組むことができるよう、高学年では、登校後各自で取り出し、自分の机のところに常備しています。低学年から、教科を問わず使用することで、学年に応じて操作のレベルを上げていくようにしています。

今回の結果から、記述式の問題の正答率が低いことが課題として挙げられます。タブレットドリル等を活用して練習問題になれることと、要点を踏まえて考えを表現できるように、タブレット端末を利用して要点を伝え合う機会を増やすよう取り組んでまいります。

(3) 視覚化支援



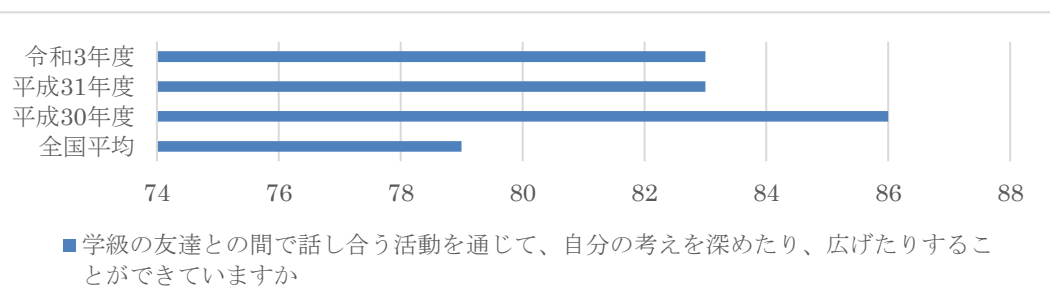
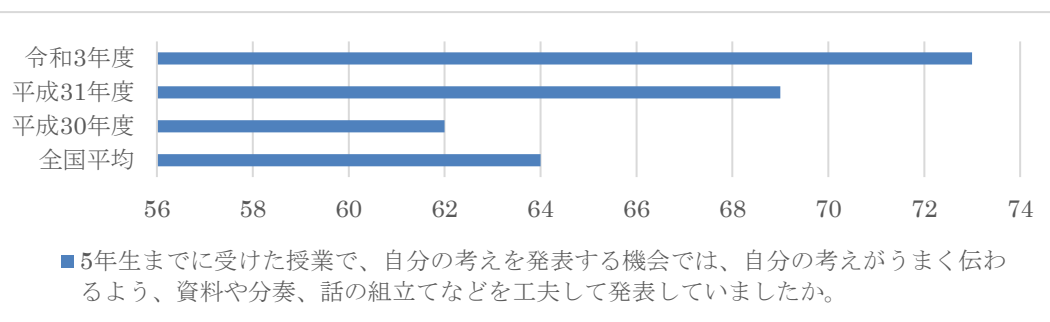
ICTを最大限に利用した効果的な授業を行っています。大型テレビに教科書の必要な部分や、意見が一目でわかるように集約し、映し出して視覚支援を行っています。大型テレビに学習課題を示すことで児童は「今何に取り組む時間か」がわかりやすく、安心して授業に取り組むことができます。

また、大画面を使用して、児童のノートを映し出し、児童が解き方や考え方をクラスの児童に説明するなど、児童の発表や意見交流にも役立てています。



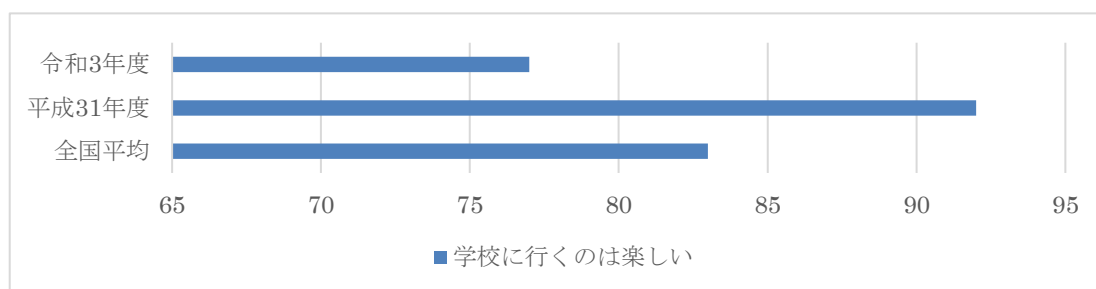
5. 児童質問紙調査の結果の概要について（肯定的評価の割合）

〈取組みの成果があらわれていたり、特徴的であると思われる事項について〉



コロナ禍のため、授業の中で思うように友だちと交流しにくい状況です。このような状況ではありますが、新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じつつ、昨年度から子どもたちが自分で考え、ペアやグループで意見や考えを交流し、自分で考えを深める活動を、独自学習・相互学習としてどの教科でも取り組み研究を進めています。また、「聞き方のあいうえお」「話し方のかきくけこ」を全教室に掲示し、統一して指導しています。授業では「聞いて考えてつなげる」ことを中心にし、対話的学習を進めていることが成果として表れています。

〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉



「自分にはよいところがあると思う」や「将来の夢や目標をもっていますか」の質問に対する肯定的回答は低くありませんが、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」や「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対する肯定的回答が伸び悩んでいます。学習活動や行事の中でさらに自己肯定感を高め、友だちと協力して頑張ることの楽しさを味合わせるようにしたい。

6. 保護者・児童のみなさんへ

・授業では、その時間の「めあて」を明確にして、どんな課題に取り組むのかの見通しをもてるようにし、授業の最後には必ず「振り返り」を行い、児童自身が身についたことやわかったこと、めあてを達成できたかどうかの確認をするようにしています。今後も、明確なゴールをめざして、一人ひとりが主体的に取り組むことができる授業、まわりの仲間とともに深い学びを育むことができる授業を追求していきます。

・学習面においては、朝の学習の充実を図り、基礎・基本となる漢字カルタの取組みやタブレットドリルの活用、計算チャレンジ、読書に取り組んでいます。また辞書を手元に置き活用することで、語彙を豊かにするようになっています。授業の中では、これらの基礎力を活用して、書くことや読むこと、表現することの力をつけるように工夫していきます

・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問にほとんどの児童が肯定的に答えています。日頃から高学年として低学年のお手伝いをし、たてわり活動や行事でも率先して先頭に立ち下級生をリードしてくれています。自分のことだけでも大変な時があるとは思いますが、常に周囲を気にかけて、友だちと協力したり助け合ったりしている姿勢を、今後も持ち続けてほしいです。